

# 国別銅デマンドサイド分析(6) インド銅需給動向

ジャカルタ事務所 次長  
jogmec2@cbn.net.id

池田 肇

## はじめに

BRICs 諸国とは、ブラジル (Brazil)、ロシア (Russia)、インド (India)、中国 (China) を言う。2003 年 10 月、ゴールドマン・サックスが「Dreaming With BRICs: The Path to 2050」というレポートでこの言葉をはじめて使用し、4 か国の成長性と投資対象としての魅力に言及した<sup>※1</sup>。同レポートによれば、2039 年までに BRICs4 か国の GDP の合計は先進国 G6 を上回り、インドの GDP は 2032 年頃には日本を越えると予想されている。BRICs は、豊富な資源に恵まれ、広大な国土を擁し、巨大な潜在市場 (人口) を有する優位性から、今後 50 年間は世界経済を牽引する原動力として期待されている。

中国は現にその旺盛な内需に支えられ非鉄金属消費を急速に伸ばしており、2005 年の消費量は、銅が対前年比 8.9% 増の 3,640,000t、亜鉛が同 28.2% 増の 2,540,000t でそれぞれ世界第 1 位、鉛は同 38.7% 増の 1,940,000t で世界第 2 位にあり世界の非鉄金属市況を牽引、陵駕している。

GDP の産業別構成比を見ても中国は鉱工業のウェイトが 47.3% と突出し、BRICs の中でも最も工業化が進み発展を遂げている。

一方、インドは中国に比べサービス業 (中国の 40.3% に対し 53.8%)、農林水産業 (中国の 12.5% に対し 18.6%) のウェイトが高く工業化は初期の段階にある。しかし、人口は 2006 年で 10.95 億人と中国の 13.14 億人に追いつき、さらに国土も広大であるため、経済の発展・成長とともにインフラ需要を刺激し、国民の生活水準の向上とともに耐久消費財の需要を拡大し非鉄金属消費を牽引する可能性を秘めている。

本稿は、こうした状況の中、非鉄金属産業のうち銅産業に焦点を当て、同国の銅産業構造を把握した上で今後の銅需要の動向について考察を行ったものである。

本調査データは、インド銅開発センター (Indian Copper Development Center) との契約により入手したものである。また、2005/2006 年度等のデータについては国際銅研究会 (International Copper Study Group Meeting: 14th General Session, 2006 年 4 月 26 ~ 28 日) [以下「ICSGM」という] のカンントリーレポート (CR) から一部紹介もを行っている。

注 1 信金中央金庫総合研究所内外経済・金融動向 (月刊 No.17-9: 2005 年 11 月 22 日)

インドと中国の比較表

|                         | インド     | 中国    |
|-------------------------|---------|-------|
| 国土面積(千Km <sup>2</sup> ) | 3,287.6 | 9,597 |
| 人口(百万人)2006年7月概算        | 1,095   | 1,314 |
| 人口年増加率(%)               | 1.38    | 0.59  |
| 平均寿命(歳)                 | 64.7    | 72.6  |
| GDP(10億US\$)*           | 720     | 2,225 |
| 一人当たりのGDP(US\$)*        | 3,400   | 6,800 |
| GDP成長率(%)*              | 8.4     | 10.2  |
| GDP構成比割合                |         |       |
| 農林水産業                   | 18.6    | 12.5  |
| 鉱工業                     | 27.6    | 47.3  |
| サービス                    | 53.8    | 40.3  |

\*は2005年値

出典:世界銀行FACT Report

## 1. 銅資源

インドの銅資源は、西部ラジャスタン (Rajasthan) 州の Khetri 銅ベルト、東部ジャルカンド (Jharkhand) 州の Indian 銅ベルトの Mosabani、Badia、Rakha と中部 マドヤプラデシ (Madhya Pradesh) 州の Malanjkhand 斑岩銅鉱床の他、オリッサ (Orissa) 州の Sargipalli 及びアドラプラデシ (Andhra Pradesh) 州の Agnigunala 等が知られている。Agnigunala は銅鉛鉱床で、上部原生界の石灰質珪岩、ドロマイト、苦

灰質石灰岩中に胚胎される。

インドの国家鉱物目録 (National Mineral Inventory) [2000 年 4 月 1 日時点] によると、国内の銅埋蔵量は約 712.5 百万 t (銅量は 9.4 百万 t) で、その内訳は確定 (Proved) 埋蔵量が 224.6 百万 t (全体の 32%)、推定 (Probable) 埋蔵量が 222 百万 t (全体の 31%)、予想 (Possible) 埋蔵量が 266 百万 t (全体の 37%) となっている (表 1)。

表1 インド国内の銅埋蔵量(2000年4月1日時点)

| 品 位        | 確定埋蔵量( Proved) | 推定埋蔵量( Probable) | 予想埋蔵量( Possible) | 合 計     |
|------------|----------------|------------------|------------------|---------|
| 1.85%以上    | 2,460          | 5,835            | 19,466           | 27,761  |
| 1.0%~1.85% | 221,232        | 215,432          | 245,257          | 681,921 |
| 0.5%~1.0%  | 909            | 878              | 1,054            | 2,841   |
| 合 計        | 224,601        | 222,145          | 265,777          | 712,523 |
| 銅 量        | 2,981          | 3,019            | 3,448            | 9,448   |

単位:百万t

## 2. 銅主要生産企業

インドの銅産業は、現在、国営銅鉱山会社の Hindustan Copper Ltd. (HCL) 公社と、民間 Sterlite Copper 社 (Vedanta Resources (VR) グループ)、Birla Copper 社の3企業が独占する状態となっている。

HCL は、1967 年、国営鉱物開発会社 (National Mineral Development Corporation Limited) から Jharkhand 州の Rakha 銅プロジェクトと Rajasthan 州 Khetri、Kolihan の鉱山を獲得し、鉱石生産から銅の電線事業まで一貫生産を行っている。1982 年、Madhya Pradesh 州 Malanjkhand 銅プロジェクトで同国最大の露天掘り鉱山を開発し、1990 年には、South Wire 社より技術供与を受けて、Maharashtra 州 Taloja に連続鑄造施設 (CCR) を建設している。同社の拠点は、Khetri 銅コンプレックス、Indian 銅コンプレックス、Malanjkhand

銅プロジェクト、Taloja 銅プロジェクトである。

Birla Copper 社は、インド第二の財閥 Aditya Birla Group が所有するインド最大のアルミ精錬メーカー Hindalco Industries 社の傘下にある。同社は2002年にグループ企業の Indalco Gulf 社を吸収し銅事業を統合。2003年、同社は鉱山から地金生産までの戦略的垂直統合を強化するため、オーストラリアの2鉱山 (Nifty 鉱山・Mt. Gordon 鉱山) を買収し精鉱・地金を調達している。

Sterlite Copper 社は、英国 Vedanta Resources 社のグループ企業で Vedanta Resources 社が保有するザンビアの Konkola 鉱山から銅精鉱を輸入している。また豪州の2鉱山 (Mount Lyell 鉱山・Thalanga Copper 鉱山) を買収し原料調達を図っている。銅カソードとロッドは Tuticorin 銅製錬所、Silvassa 銅精錬所で製造している (図1、表2)。



図1 インドの銅産業主要拠点図

表2 銅主要生産会社保有鉱山

| 会社名                          | 鉱山名   | 鉱山サイト |
|------------------------------|---|-------|
| Hindustan Copper Ltd.( HCL ) | Malanjkhand( マドヤ・プラデシュ州 ) Khetri( ラジャスタン州 )<br>Indian Copper Complex( ジャルカンド州 ) | 国内    |
| Birla Copper                 | Birla Nifty ( 豪 )、Birla Mt. Gordon( 豪 )   | 海外    |
| Sterlite Copper              | Thalanga Copper ( 豪 )、Mount Lyell ( 豪 )、Konkola( ザンビア )                         | 海外    |

### 3. 銅精鉱の生産と消費

インドで銅精鉱の生産を行うのは実質的には HCL のみで、2000/2001 年度から 2004/2005 年度の 5 年間の生産量は、年間 29,000t から 35,000t (精鉱中銅含有量) の規模となっている。一方、国内に自社鉱山を持たな

い Birla Copper 社や Sterlite Copper 社は精鉱調達の多くを輸入に頼っている。精鉱輸入量は、2000/2001 年度は 776,000t であったが、2004/2005 年度は 1,350,000t に増加している (表 3 1、3 2)。

表3 1 HCL社の銅鉱石の生産量と含有銅

| 年度        | 鉱石(千t) | 精鉱中の銅含有量(t) |
|-----------|--------|-------------|
| 2000/2001 | 3,477  | 34,087      |
| 2001/2002 | 3,396  | 34,282      |
| 2002/2003 | 3,064  | 30,824      |
| 2003/2004 | 2,895  | 28,306      |
| 2004/2005 | 2,923  | 28,926      |

表3 2 銅精鉱の消費量

| 年度        | 国内生産量(A) | 輸入量(B)    | 全体消費(A+B) |
|-----------|----------|-----------|-----------|
| 2000/2001 | 131,000  | 776,000   | 907,000   |
| 2001/2002 | 132,000  | 1,062,000 | 1,194,000 |
| 2002/2003 | 119,000  | 1,176,000 | 1,295,000 |
| 2003/2004 | 118,000  | 1,201,000 | 1,319,000 |
| 2004/2005 | 84,000   | 1,350,000 | 1,434,000 |

### 4. 精鉱の輸入元国と輸入量/金額

精鉱の輸入元国は、チリ、豪州、インドネシア、パプア・ニューギニア、ブラジル、ペルー等となっている。Birla Copper 社は豪州の 2 鉱山 (Nifty・Mt. Gordon) から、2004/2005 年は精鉱需要の約 10% を輸入している。2004/2005 年度の精鉱の輸入元国別の輸入量/金額を表 4 に示す。

また、ICSGM の CR では、2004/2005 年度の輸入元国別割合を図 2 のとおり報告している。

### 5. 銅の電解精錬

#### 5 1. 電解精錬能力

インドの電解精錬銅の生産は、かつては HCL 会社だけであった。しかし 1997/1998 年度に民間大手の Sterlite Copper 社と Birla Copper 社が参入し、2004/2005 年度には Jhagadia Copper 社 (旧 SWIL 社) が二次原料 (スクラップ) を原料とした生産を開始 (生産能力 50,000t/年) して、全体の精錬生産能力は 647,500t/年となっていた。Birla Copper 社の生産能力は近い将来、500,000t/年にまで増強される見通しである (表 5)。

表4 輸入精鉱の輸入元国別の輸入量と金額 (2004/2005年度)

| 輸入元国       | 輸入量(t)  | 輸入金額(億ルピー) |
|------------|---------|------------|
| アルゼンチン     | 21,300  | 9.8        |
| オーストラリア    | 196,900 | 66.6       |
| ブラジル       | 32,700  | 11.9       |
| カナダ        | 22,800  | 10.0       |
| チリ         | 312,200 | 12.5       |
| インドネシア     | 89,800  | 44.4       |
| パプア・ニューギニア | 31,500  | 15.6       |
| ペルー        | 22,000  | 6.9        |
| 南アフリカ      | 40      |            |

表5 インドの製錬所別電解精錬銅生産能力 (2004/2005年度)

| 電解精錬所           | 生産能力(t/年) |
|-----------------|-----------|
| HCL             | 47,500    |
| Sterlite Copper | 300,000   |
| Birla Copper    | 250,000   |
| Jhagadia Copper | 50,000    |
| 合計              | 647,500   |

出典:商業情報統計総局

#### 5 2. 電解精錬銅生産量

2004/2005 年度の電解精錬銅の国内総生産量 (スクラップルートを生産を除く) は 415,009t と、1996/1997 年度の 38,481t 及び 2000/2001 年度の 265,060t から劇的に増加している (表 6)。

表6 インドの電解精錬銅生産量

| 年 度       | 生産量(t)  |
|-----------|---------|
| 1996/1997 | 38,481  |
| 2000/2001 | 265,060 |
| 2001/2002 | 305,519 |
| 2002/2003 | 351,731 |
| 2003/2004 | 395,862 |
| 2004/2005 | 415,009 |

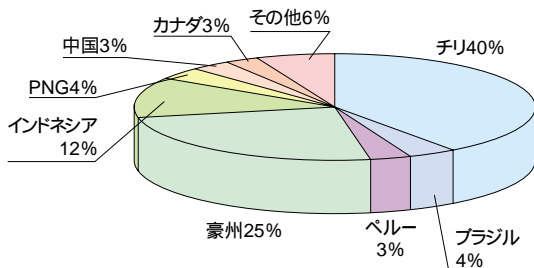


図2 輸入精鉱の輸入元国別割合 (2004/2005年度)

一方、ICSGMのCRによると2005/2006年度の電解精錬銅の生産量は523,000t(スクラップルートを含む)で、会社別生産割合は図3のとおりとなっている。

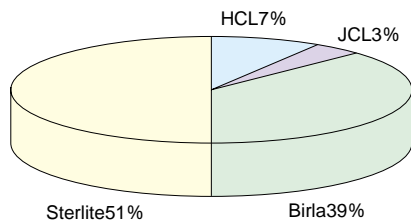


図3 電解精錬銅会社別生産割合(2005/2006年度)

### 5.3. CCR ロッド生産

2004/2005年度のCCRロッド生産量は263,151tで、2000/2001年度から約42,500tが増加しただけである。CCRロッドは、HCL社、Birla Copper社、Sterlite Copper社、Finolex Wire Products社、Indian Extrusion社の5社が生産している。インド国内のCCRロッド生産量を表7に示す。

表7 インドのCCRロッド生産量

| 年 度       | 生産量(t)  |
|-----------|---------|
| 2000/2001 | 220,686 |
| 2001/2002 | 211,505 |
| 2002/2003 | 226,049 |
| 2003/2004 | 263,442 |
| 2004/2005 | 263,151 |

### 6. 精錬銅の国内販売

インドでの精錬銅は主にカソード銅とCCRロッドの形で販売されている。インドでは最近、一部の特殊用途のものの輸入を除き精錬銅の自給はほぼ達成し輸出も行われるようになってきている。これは生産の増加に対して市場が成長していないためでもある。精錬銅の国内販売量を表8に示す。

表8 インドの精錬銅の国内販売量

| 年 度       | 国内販売量(t) |
|-----------|----------|
| 2000/2001 | 233,000  |
| 2001/2002 | 265,000  |
| 2002/2003 | 231,000  |
| 2003/2004 | 211,000  |
| 2004/2005 | 211,000  |

HCL社は、ここ5年間(2000/2001年度～2004/2005年度)は全ての製品(カソード・CCRロッド)を国内市場に出荷し、Sterlite Copper社とBirla

Copper社の2社は、国内市場と海外市場に出荷してきている。

### 7. 精錬銅の国内消費量

インドの精錬銅の国内消費量は、1997年まで国内の一次精錬銅の生産業者がHCL社のみ(銅カソード年間生産量が47,500t)であったこともあって、生産量を超える需要量は海外から精錬銅を輸入し対応していた。そのため、この間の国内消費量は、国内生産量と輸入量の総和となる。

しかし、1998/1999年度に入ると、民間大手2社が精錬銅を輸入しカソード生産を行うようになったため、精錬銅の生産量は国内需要量を超過するまでに増加し、カソードやCCRロッドの輸出が始まった。また一部の業者が何らかの理由によってカソードやCCRロッドを輸入してもいたため、この期間におけるインド国内の精錬銅の消費量は、国内生産量と輸入量の和から輸出量を除き算出することができる(2000/2001年度～2004/2005年度の推移を表9に示す)。

表9 インドの精錬銅の消費量

| 年 度       | 国内生産量(A) | 輸入量(B) | 輸出量(C)  | 消費量(A+B-C) |
|-----------|----------|--------|---------|------------|
| 2000/2001 | 265,060  | 45,282 | 32,000  | 278,342    |
| 2001/2002 | 305,519  | 56,044 | 40,000  | 321,563    |
| 2002/2003 | 351,731  | 45,090 | 147,000 | 249,821    |
| 2003/2004 | 395,862  | 80,871 | 181,000 | 295,733    |
| 2004/2005 | 415,009  | 83,424 | 201,000 | 297,433    |

## 8. 輸入精錬銅の輸入元と輸入額

インドに輸入される精錬銅は、銅カソード、CCR ロッド、ワイヤ棒など様々な形状で輸入されている。イ

ンドの年度別（2000/2001年度～2004/2005年度）のカソード、CCR ロッド、ワイヤ棒、その他の精錬銅の製品別輸入量を図4に示す。

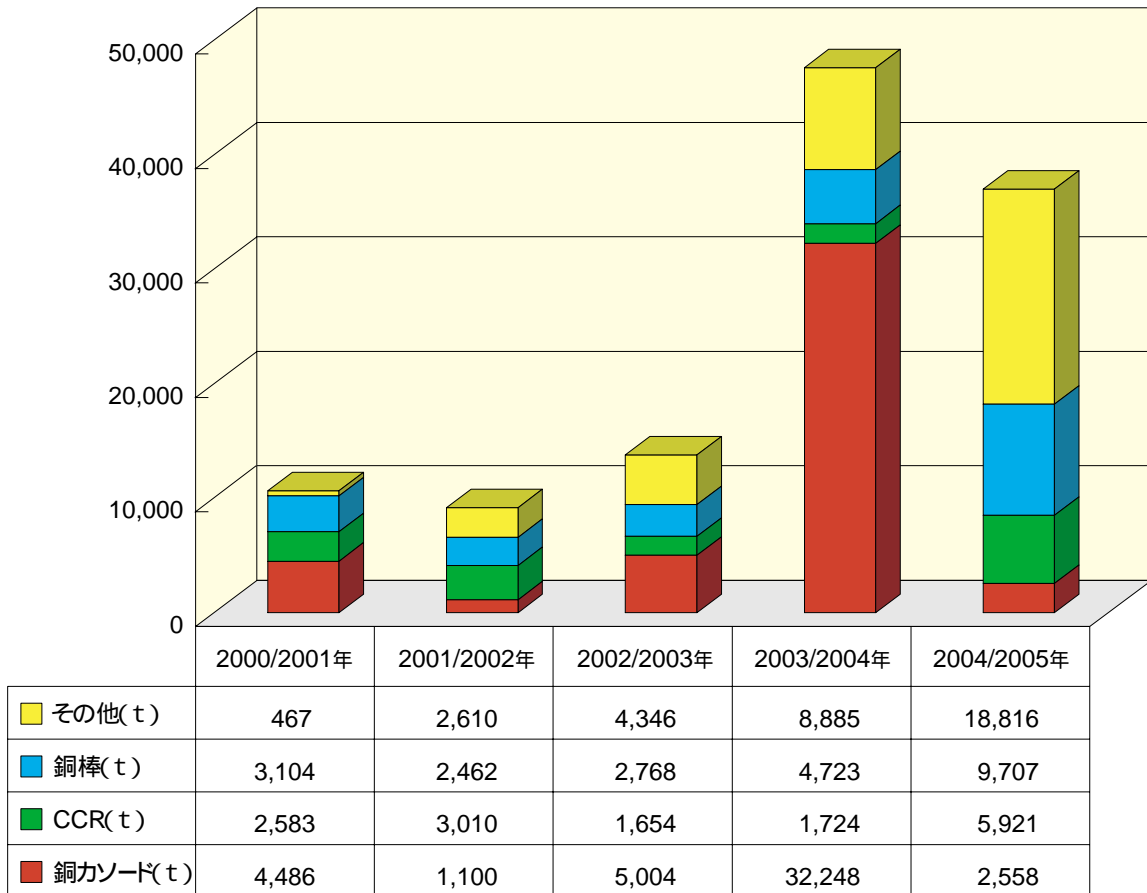


図4 精錬銅の製品別輸入量

## 9. 中間半製品の輸入

インドの銅及び銅合金の中間半製品の輸入量は、2000/2001年度は37,492t、2004/2005年度は54,466tと

なっている（銅合金の中間半製品の輸入量は、合金の総重量を計上）(表10)。

表10 中間半製品の輸入量

| 年 度       | 中間半製品輸入量(t) | 銅合金の中間半製品輸入量<br>(合金総重量)(t) | 合計(t)  |
|-----------|-------------|----------------------------|--------|
| 1997/1998 | 29,690      | 6,755                      | 36,445 |
| 1998/1999 | 22,641      | 10,652                     | 33,293 |
| 1999/2000 | 21,433      | 8,113                      | 29,546 |
| 2000/2001 | 29,348      | 8,144                      | 37,492 |
| 2001/2002 | 40,623      | 9,599                      | 50,222 |
| 2002/2003 | 25,251      | 9,335                      | 34,586 |
| 2003/2004 | 20,950      | 18,986                     | 39,936 |
| 2004/2005 | 31,483      | 22,983                     | 54,466 |

## 10. スクラップ銅の消費

インドではスクラップ銅が中間半製品・銅合金の中間半製品・鋳造品の重要な原料となっている。

インドで消費される銅スクラップは、国内で発生するスクラップ、輸入スクラップ、船舶解体で生じるス

クラップの3通りの経路がある。一次銅と二次銅（スクラップ）の MATERIAL・FLOW を図5に示す。本調査によれば、国内での精錬銅と銅スクラップの消費の比率は、65 : 35 ~ 60 : 40 となっている（表11）。

表11 スクラップ銅の消費量

| 年 度       | 銅スクラップ     |          |                   |                | 国内発生分<br>+<br>船舶解体(E) | 合計<br>(F = D + E) |
|-----------|------------|----------|-------------------|----------------|-----------------------|-------------------|
|           | 銅<br>重量(A) | 銅合金      |                   | 全銅量(D = A + C) |                       |                   |
|           |            | 合金総重量(B) | 換算銅量(C = B × 65%) |                |                       |                   |
| 2000/2001 | 22,300     | 62,800   | 40,800            | 63,100         | 142,900               | 206,000           |
| 2001/2002 | 28,200     | 83,100   | 54,000            | 82,200         | 90,800                | 173,000           |
| 2002/2003 | 39,700     | 52,800   | 34,300            | 74,000         | 166,000               | 240,000           |
| 2003/2004 | 52,400     | 39,900   | 25,900            | 78,300         | 145,700               | 224,000           |
| 2004/2005 | 61,600     | 48,000   | 31,200            | 92,800         | 160,200               | 253,000           |

注 銅合金の銅含有量は、各々のスクラップで異なるが、平均65%と仮定して計算。

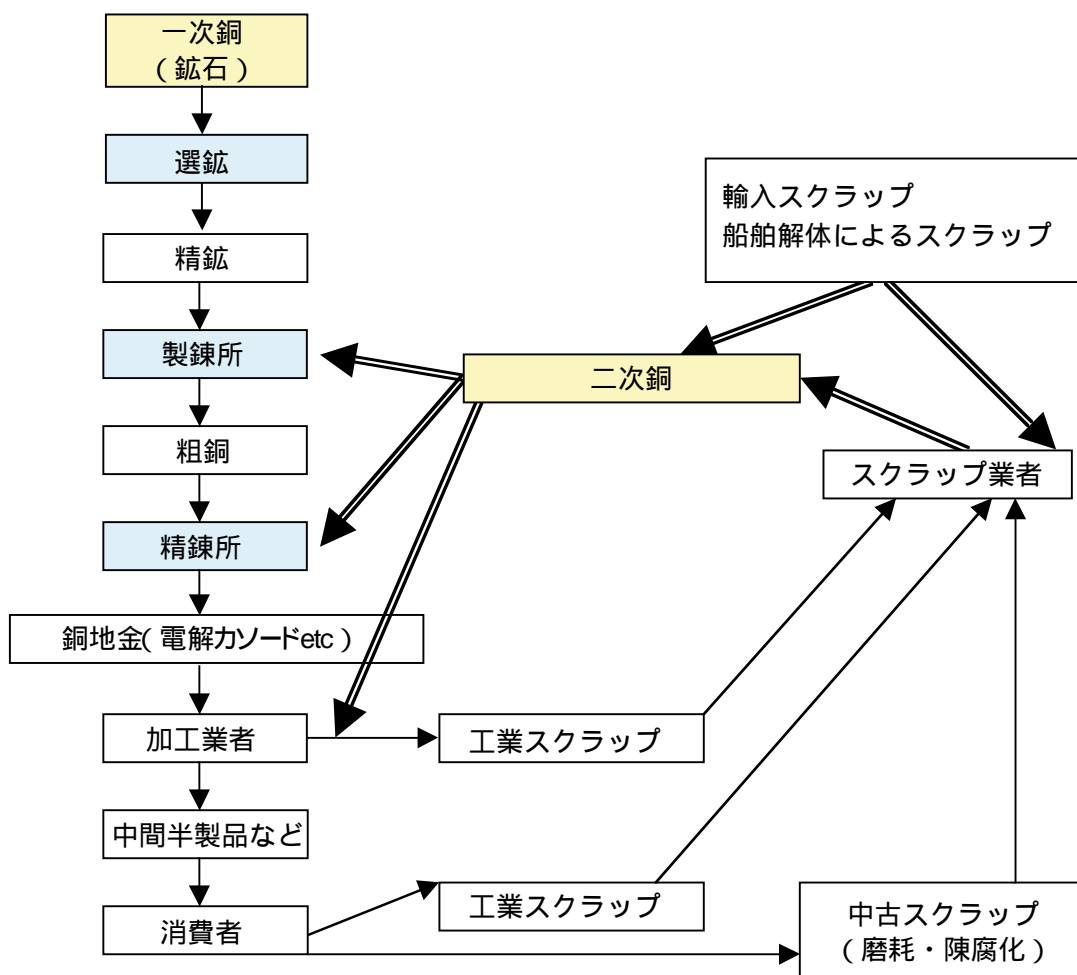


図5 銅の MATERIAL・FLOW

## 11. 銅産業の市場規模 (全体消費量)

インドの銅産業の市場規模は、本調査により2004/2005年度は550,000t、2005/2006年度は580,000tと推定された。2000/2001年度～2004/2005年度の5年間の年間成長率は約5～6%と堅調に推移しているが、中国の3,640,000tに比べ市場はかなり小さいことがわかる。表12にこれまでの銅の市場規模(全体消費量)の推移を示す。

市場規模(全体消費量)は、一次精錬銅(CCR+カソード+ワイヤ棒)と輸入された銅/銅合金の中間半製品、二次銅(スクラップを含む)の消費量の総和から算出し求めている。参考までに、2000/2001年度から2004/2005年度の試算表(バランスシート)を表13に添付する。

表12 インドの銅の市場規模(全体消費量)の推移

| 年 度       | 消費量(t)  |
|-----------|---------|
| 1947/1948 | 25,000  |
| 1950/1951 | 32,000  |
| 1960/1961 | 62,000  |
| 1970/1971 | 31,700  |
| 1980/1981 | 117,360 |
| 1990/1991 | 207,170 |
| 1995/1996 | 321,080 |
| 2000/2001 | 484,000 |
| 2001/2002 | 495,000 |
| 2002/2003 | 490,000 |
| 2003/2004 | 520,000 |
| 2004/2005 | 550,000 |
| 2005/2006 | 580,000 |

表13 試算表(バランスシート)

| 図表類       | 表 5.2     |                | 表 7       |                 |            |             |           |          |                | 表 8    |        |        |  | 表 9 |  |
|-----------|-----------|----------------|-----------|-----------------|------------|-------------|-----------|----------|----------------|--------|--------|--------|--|-----|--|
|           | 市場        |                |           |                 |            |             |           |          |                |        |        | 一次製品市場 |  |     |  |
| 製品        | 国内生産      |                |           | 輸入量             |            |             |           |          |                | 中間半製品  |        |        |  |     |  |
|           | 中計<br>+ + | 国内生産量<br>銅カソード | 輸出量       | 輸入量<br>+ + *65% | 銅カソード<br>a | ロッドCCR<br>b | ワイヤー<br>c | その他<br>d | 合計<br>=a+b+c+d | 銅      | 銅合金    |        |  |     |  |
| 2000/2001 | 278,342   | 265,060        | - 32,000  | 45,282          | 4,486      | 2,583       | 3,104     | 467      | 10,640         | 29,348 | 8,144  |        |  |     |  |
| 2001/2002 | 321,563   | 305,519        | - 40,000  | 56,044          | 1,100      | 3,010       | 2,462     | 2,610    | 9,182          | 40,623 | 9,599  |        |  |     |  |
| 2002/2003 | 249,821   | 351,731        | - 147,000 | 45,090          | 5,004      | 1,654       | 2,768     | 4,346    | 13,772         | 25,251 | 9,335  |        |  |     |  |
| 2003/2004 | 295,733   | 395,862        | - 181,000 | 80,871          | 32,248     | 1,724       | 4,723     | 8,885    | 47,580         | 20,950 | 18,986 |        |  |     |  |
| 2004/2005 | 297,433   | 415,009        | - 201,000 | 83,424          | 2,558      | 5,921       | 9,707     | 18,817   | 37,003         | 31,483 | 22,983 |        |  |     |  |

| 図表類       | 表 10     |            |                           |         |         |         | 表 11              |              |                   |         |         |
|-----------|----------|------------|---------------------------|---------|---------|---------|-------------------|--------------|-------------------|---------|---------|
|           | 市場       |            |                           |         |         |         |                   |              |                   |         | スクラップ市場 |
| 製品        | 輸入量      |            |                           | 中計<br>+ | 国内発生量   | 合計      | 銅の市場規模<br>(試算ベース) |              | 銅の市場規模<br>(全体消費量) |         |         |
|           | 銅<br>(A) | 銅合金<br>(B) | スクラップ輸入量<br>(D=A+C=B*65%) |         |         |         | 国内発生分<br>+船舶解体    | スクラップ<br>消費量 |                   | + + + + |         |
| 2000/2001 | 22,300   | 62,800     | 63,100                    | 108,400 | 142,900 | 206,000 | 484,360           | 484,000      |                   |         |         |
| 2001/2002 | 28,200   | 83,100     | 82,200                    | 138,200 | 90,800  | 173,000 | 494,519           | 495,000      |                   |         |         |
| 2002/2003 | 39,700   | 52,800     | 74,000                    | 119,100 | 166,000 | 240,000 | 489,831           | 490,000      |                   |         |         |
| 2003/2004 | 52,400   | 39,900     | 78,300                    | 159,200 | 145,700 | 224,000 | 519,762           | 520,000      |                   |         |         |
| 2004/2005 | 61,600   | 48,000     | 92,800                    | 176,200 | 160,200 | 253,000 | 550,409           | 550,000      |                   |         |         |

## 12. 産業部門別の銅消費

産業部門別の銅消費に関しては、電気産業が最も高いシェアを占めており、エレクトロニクス、通信産業の需要の合計が全体の消費に占める割合は2004/2005年度で55%となっている。このデータは、通信ケーブルの銅需要が2000/2001年度の120,000tから2004/2005年度の18,000tに落ち込んだことを考慮すると、他の用途での銅需要がいかに高いかを物語るものとなっている。この傾向は電気産業の需要増(すなわちワイヤ/小板/ケーブル導体の需要増)においても今後も維持される見通しである。産業部門別の銅消費割合を表14、図6に示す。

表14 産業部門別の銅消費割合

単位:%

|             | 1990/1991年 | 1994/1995年 | 2000/2001年 | 2004/2005年 |
|-------------|------------|------------|------------|------------|
| 電気          | 37         | 34         | 30         | 48         |
| エレクトロニクス・通信 | 17         | 18         | 22         | 7          |
| 輸送          | 8          | 8          | 8          | 7          |
| 加工産業        | 4          | 6          | 5          | 5          |
| 一般エンジニアリング  | 7          | 5          | 5          | 6          |
| 耐久消費財       | 10         | 6          | 7          | 7          |
| 土木建築        | 2          | 9          | 7          | 7          |
| 防衛・造幣       | 6          | 3          | 3          | 3          |
| 工芸品その他      | 9          | 11         | 13         | 10         |

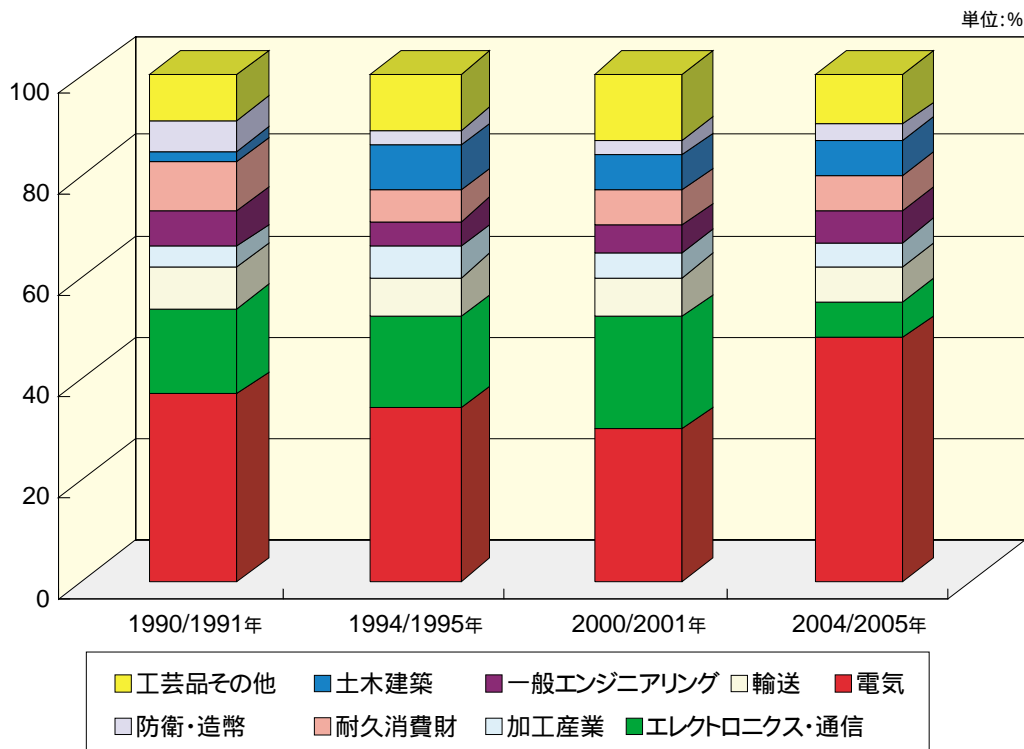


図6 産業部門別の銅消費割合

### 13. まとめ：将来の予測と競争力

インドは精錬銅生産において、民間製錬所の操業開始によって生産量が大幅に増加したため、かつての輸入国から正味輸出国へと転換している。

国内の製錬所/精錬所（特に最近、操業を開始した民間の2施設）は、生産性が高い上に製品（カソード）の質もLMEレベルに達している。今後、インドの精錬銅が品質と価格の両面において国際的な競争力を得るには、ボトルネックの解消と既存製錬所の拡張を継続していくことが重要な要素となる。

中間半製品に関しては、生産能力が国内需要量を大幅に超過しているため、多くの工場で生産能力に対する稼働率が低くなっている。また、政府の外国企業への関税優遇措置によって、国内製造業者が市場競争で海外企業よりも不利な立場に置かれてもいる。しかし、インドの製造業者は、最新の設備を導入している上、熟練労働者・安い労働コスト・国内市場の成長といった強みも備えている。

インドは国土が広く人口が多い国で現在は急速な発展の途上にあり、GDPの年間成長予想率は8%と非常に有望である。銅消費量に関しては、1人当たりの年間消費量が約0.5kgと世界平均の3kgをかなり下回っていることから今後の急増が期待され、年間成長率は世界平均を大きく上回ると予想される。

銅消費で最大のシェアを有するのは電気産業であり、この傾向は今後も続くものと予想される。

実際、この部門での銅需要はインド政府の“電力の質向上”及び“国内全域への電力供給プログラム”といった推進運動によって益々、増加すると見込まれている。

また、建物用配線ケーブル・エネルギー効率の変圧器・モーターなどにはサイズの大きな導体の使用が向くという認識の広まりも、銅消費の成長を押し上げる要因となっている。耐久性消費財の部門でも、銅消費量が増加している。これは主に、国内の生活水準が向上している上、人口数が非常に多いことから、冷蔵庫・エアコン・台所用電化製品などの需要が大幅に増加すると期待されている。今後もこの傾向はしばらく続くと思われる。

2010/2011年度までの間の銅需要の年間成長率の予想は、専門家によって6~12%と開きが出ているが、本調査では成長率を6%、8%、10%、12%と仮定し、その市場規模（全体消費量）を予想したところ、776,000t、852,000t、934,000t、1,022,000tという結果となった。

(2006.11.23)